

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200302		
法人名	特定非営利活動法人ソーシャル・ネットワーク		
事業所名	グループホームぬくもりの里かも		
所在地	岐阜県美濃加茂市加茂野町鷹之巣2239番地		
自己評価作成日	令和4年8月6日	評価結果市町村受理日	令和4年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoCd=2171200302-00&SerViCeCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和4年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年、浴室を大改修リフト浴を導入したことにより、自力での入浴が困難な方でも安楽・安全に入浴していただけます。感染症予防対策として、定期的な職員のPCR検査やオゾン発生器を各箇所に設置することで感染予防に努めております。簡易陰圧装置を2台導入し、万が一、新型コロナウイルスやインフルエンザに罹患されても安心してお過ごしいただけます。健康管理面では、月2回の往診や各ユニット毎に常勤の看護師を配置することで、口腔衛生、服薬管理はもちろん、急病などの場合にも迅速に対応しております。また、敬老会や誕生日会など毎月行事を行っており、季節に合わせたイベントを計画しています。近年コロナの影響で中止となっておりますが、年1回の1泊旅行や日帰り旅行は利用者の方もとても楽しみにされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「穏やかに、ゆつくりと」をモットーに、利用者個々の思いやペースを尊重し、寄り添うケアで接している。コロナ禍で地域との交流や外出事ができないなかで、季節行事、誕生日会、おやつ作りやレクリエーション等で皆が参加できて楽しみとなる時間を工夫しながら提供している。利用者のできる事を毎日の生活のなかで、当番制や役割として担ってもらい身体機能維持と認知症の進行防止につなげている。感染症への予防対策として利用者もマスクを着用、職員はPCR検査及び抗原検査を定期的実施している。リフト浴の導入と看護師が3名常駐し、重度化した場合への体制を整えている。家庭事情に配慮した働き方や就業環境の改善を目指す労使会議を定期的開催し、働きやすい職場にしている。利用者の安全を第一に考えている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月2回のカンファレンスにて、法人理念、介護理念を唱和し、理念の共有をしています。また「おだやかにゆっくりと」をモットーに掲げ常に意識し声をかけあい介護を行っています。	管理者は利用者と職員が共に安全を第一に、せかせず、ゆっくり穏やかに過ごせるように職員に話している。介護理念を事業所の理念として、会議等で唱和し、日々のケアを振り返りながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への積極的な参加と園児・地域ボランティアの積極的な受け入れをしている。	認知症当事者の会に利用者と一緒に参加し、外部の人との交流や作品作りをしている。音楽療法士や大学・専門学校生の訪問時に交流している。住民から野菜を頂いたり、散歩時に会おうと挨拶や話をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	資格取得時の実習、市内の中学生の職業体験などの受け入れを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	夜間に運営推進会議を開催しており、多くの方にご参加いただいております。参加者の方や知人の経験談等を話していただき、当施設への取り組みに活かしています。	感染症予防に配慮し、コミュニティセンターの学習室に会議場所を変更し、メンバーが参加しやすい夜間に開催している。地域行事や認知症啓発事業の案内、感染症予防対策の助言等をもらい、家族にも知らせ事業所で参考にして取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、情報交換を行い連携を心掛けています。	電話やメールでの情報交換は多いが、書類提出時は市の担当者に事業所の実情を伝えている。市主催の会議や研修はオンラインで参加している。大規模改修事業や備品購入で市の助言や助成を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修の研修を行った。常に話し合い実践するよう心掛けています。	身体拘束等の適正化のための指針を定め、定期的に委員会を開催し、年2回の研修を実施している。日常業務のなかで言葉遣いや転倒防止から身体拘束にならないよう、些細な事も職員で話し合い、拘束しないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を行った。相談し合える環境づくりに努め、共通の認識を持つようにしている。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しての外部研修に参加できる機会があれば活用し支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者やその家族の方に対して、十分な説明を行い、疑問点や不安なことなど時間をかけて理解していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の訪問時等の際に、ご意見やご要望などをお聞きしている。頂いたご意見等はすぐに検討し対応させていただいている。	オンライン面会時、電話やメールで家族の意見や要望を聞いている。毎月、日頃の様子や行事写真を添えて、担当者が一言近況を書いて意見が言いやすいようにしている。家族にも、できるだけ丁寧に時間をかけて聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員代表を選出し、意見や提案を聞く機会を作り会議で話し合っている。	日々の業務内で出た意見を申し送り時やユニットで随時の話し合いをする等、いつでも意見が言えて月2回の会議で検討し周知している。備品や消耗品の購入希望、お茶ゼリーの提案も対応できた。自己点検表にて振り返り、面談で意見も言えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理職や職員の個々の実績や努力、勤務状況などを把握し、それを基に考課表により問題点をあげ各自が向上が持てるように職場環境や条件の整備に努め楽しくやりがいを持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理職や職員に対して外部研修、施設内研修を行っている。また、資格取得については積極的にスキルアップを図れるようバックアップしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の訪問等と通じ情報交換を行っています。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴し寄り添うケアに努め、職員間で情報共有し利用者が安心して生活できるような関係づくりを心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の悩みや要望などを時間をかけてじっくり聞き取りながら、良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族様との話し合いにて、必要な支援を見極め、適切なサービスを利用できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	配膳や洗い物、洗濯干しやたたむ等、以前からされていた事を通じて、レクリエーションや物づくり等を一緒に行う時間を設け、関わりを持つようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様のご意見を聞きながら共に支え合う気持ちを持って利用者のかたを支援していく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得て墓参りに外出していただいたり、誕生日等のお祝い時に外食していただいている。	家族の協力を得ての受診時に、喫茶店での飲食や散歩等をお願いしている。親族や友人からの電話の取り次ぎ、手紙や年賀状は宛名の確認をし、関係の継続を支援している。遠方の親族が来所時は、面会を叶えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の合う利用者同士の関係性を見極め良好な関係が保てるように支援している。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られた後でも面会などさせていただいています。施設側とも連携を図り、より良いケアを提供できるよう支援させていただいている。看取りをさせていただいたご家族様にはお見送りさせていただいております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話から趣味や特技を把握し、意向に沿った支援を行えるよう努めている。	本人の言葉で希望が言えるように、あせらず、ゆっくりと聞いている。筆談やジェスチャー、夜間や居室で聞く場合もある。飲み物やおやつを選択しやすく、指さしや首振りなどで自己決定できるよう意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には、訪問しサービス利用の経緯把握や生活歴などの把握に努めている。入所後はカンファレンスにて情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の一日の過ごし方を介護記録に記載し現状の把握に努めている。変化があれば申し送りにて、情報共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な限りご家族様同席での担当者会議の開催を心掛けているが、困難な場合はお電話にて確認させていただき、介護計画を作成している。	本人や家族の意向を聞き、医師や看護師とも連携し介護計画を作成している。定期的な更新とモニタリングは6ヶ月毎に行っている。月2回の会議で利用者全員の振り返りと気づきを話し合い、必要時は見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別で介護記録に記入し職員間で情報共有し、より良いケアに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の要望について柔軟な支援をするように努めています。変化があれば変更し、報告するよう努めています。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設避難訓練の際に地域の方にも参加していただけるように案内を出している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、協力医はご本人様やご家族様の意向に合わせている。他科受診はご家族様に依頼することでご本人様の状態等をご家族様と共有し連携に努めている。	入居時に家族の意向で協力医に変更する人が多い。かかりつけ医を受診時は家族が同行し、日頃の様子を記した書面を渡し、受診後に報告を受けている。看護師が家族の受診に同行する時もある。訪問看護や歯科の訪問診療を利用している人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づいたことなどはすぐに看護師に伝え相談し医療的な対応を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して治療を受けられるようにご家族様や病院と良好な関係が保てるように努めている。病院の相談員との連携を図り関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化に伴い、その都度、医師やご家族様、看護師などと話し合いながら対応しています。救急対応は消防署や看護師による指導にて職員全員研修を受けております。	入居時に事業所の方針を説明している。状態に合わせて看護師が家族に説明し、意向を確認し希望に添うよう支援している。医師から家族に説明する場合もある。看取り時は医師の指示にて、看護師が指導し情報を共有し、家族と一緒に看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は応急手当や初期対応の講習を行い、実践力を身に付けるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜の火災を想定した避難訓練を定期的に行っています。近隣の地域の方との連絡網を作成し、地域との協力体制が図られている。災害時の避難場所としての受け入れを受託している。水害に対する避難訓練も行った。	夜間想定を含め年2回の訓練と事業所独自に抜き打ちの訓練を年2回実施している。火災、地震、水害等の通報・避難訓練を利用者も一緒に参加している。水、米やオムツ等を備蓄し、見直しも検討している。ご近所お助け連絡網を作成し、自治会長から協力の承諾は得ているが、訓練時に住民の協力が得られていない。	以前から地域との交流や協力体制はできており、コロナ禍の状況でやむを得ない事態ではあるが、終息時は住民の協力が得られる働きかけが望まれる。

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、トイレ前や居室入り口にカーテンを設置し外から見えにくいよう配慮している。人生の先輩として尊重し言葉かけや対応をしています。	自尊心を傷つけない声かけや丁寧な言葉遣いに注意している。声のトーン、強い口調や声の大きさ等にも配慮し、接遇研修も実施している。朝寝坊したい、遅くまでTVを見たい、飲酒したい等その人の意向を尊重した支援に心掛けている。写真の掲示は同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の色々な場面で自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にできる限り希望に沿った支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の更衣など、ご自身で選んでいただけるよう支援している。隔月の出張床屋にて散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、献立表を立て誕生日や行事に合わせて、メニューを変更しています。行事食と一緒に作ったり、配膳を一緒に行ったり、楽しみをもっといただけるよう工夫をしています。	頂いた旬の野菜を使い利用者の好みを優先した献立で、誕生日は希望のメニューにしている。行事食は、寿司、鰻、出前弁当、バイキング、弁当風の盛り付け、手作りおやつにする等、楽しみを工夫している。お盆・食器・食卓拭き、配膳や洗い物等できることをしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスや水分補給は毎食後に摂取量を記入し、個々の栄養管理に努めている。体重測定は月1回行い目安としています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っています。ケア困難な方や不十分な方は介助させていただき口腔衛生に努めています。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェック表から利用者様の排泄パターンを把握し、できる限りトイレにて排泄できるよう支援している。	立位困難な人も二人介助し、日中はトイレ排泄を基本とし自立に向けた支援をしている。さりげない見守りや声かけをしたり、パッドの種類を変えたり、リハビリパンツから布パンツにしたりして、職員で話し合いながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫、十分な水分補給、看護師による排便コントロールを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	重度者の方も2人介助で可能な限り浴槽に入っただけよう支援しています。入浴順を決めず、その日の体調や気分に応じて入浴していただいています。	希望のシャンプー、ボディソープや入浴剤を使用し、かけ流しで湯温や順番も希望に合わせている。身体状況に合わせて、リフト浴、シャワー浴や清拭でも対応している。柚湯にする場合もあり、楽しみな入浴になるようにしている。嫌がる人には、せかせさず声かけの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調を考え、午前と午後に休憩時間を設けています。足背や下肢に浮腫がある方には足挙上にて改善に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の介護記録に薬の説明書が綴っており、薬のことが一目でわかるようになっています。服薬時には名前や日付などを利用者様と一緒に声出し確認をし、誤薬のないよう細心の注意を払っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人それぞれにあった役割を見つけ支援を行っています。外出などで気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出掛けるなど戸外にでる機会を作っています。中庭にておやつを食べたり、写真撮影をしたりしました。	中庭に鯉のぼりを川渡しのように吊り下げたり、木に蕾や満開の花に見立てた造花を飾ったりして写真を撮る、お茶を飲む、洗濯物を干す等で外気に触れるようにしている。散歩、花見や紅葉狩りは車イスの人と一緒に出掛けている。家族にも外出の機会をお願いしている。	

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、入所されている方でお金を所持されている方がいない為、支援していません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	四季の手紙は定期的を書いていただけるように支援しています。新型コロナウイルス感染症予防の為、面会を制限させていただいた為、オンライン面会の支援を行いました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には利用者様との共同作業で作成した作品が飾られており季節感を表現していません。写真も多く貼り、会話のきっかけになるようにしている。	廊下や通路の全面に季節の壁画、共同作品、行事写真や皇室の写真等を貼っている。各所に空気清浄機、オゾン発生器、玄関にサーキュレーターを設置し、常時換気し日に2回の消毒で感染症予防をしている。新聞や雑誌を読んだり一人で過ごせるように廊下隅に長椅子を置いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには2人掛けと3人掛けのソファが置かれ、寛ぎの空間となっています。廊下のベンチは憩いの場となっております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の希望で畳を部分敷にしたり、TVや筆筒などの調度品を置いています。居室にはご家族様との写真を掲示しています。	使い慣れた寝具、机、時計、剃刀等を持ち込み、歴史本や雑誌を使いやすい位置に置いている。家族写真、カレンダー、誕生日や敬老会の祝い色紙、自分の書や作品を自由に飾っている。日記を書く、メモをとる、本を読む等自由に過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーになっておりトイレ、廊下には手すりが設置されていて、安全・安心して自由に自立した生活が出来るようになっています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200302		
法人名	特定非営利活動法人ソーシャル・ネットワーク		
事業所名	グループホームぬくもりの里かも		
所在地	岐阜県美濃加茂市加茂野町鷹之巣2239番地		
自己評価作成日	令和4年8月6日	評価結果市町村受理日	令和4年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index_php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosvoOd=2171200302-00&SerVi.ceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和4年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月2回のカンファレンスにて、介護理念を唱和し、理念の共有をし実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への積極的な参加と園児・地域ボランティアの積極的な受け入れをしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の中学生の職業体験や近隣にお住まいの大学生などの施設見学を受け入れしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加されたご家族様や地域の方のご意見を職員と情報共有しサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、情報交換を行い連携を心掛けています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修の場を設け、相談し合える環境づくりに努め共通の認識を持ち、拘束しないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修機関にて研修を受けている。また、施設内研修を行い、常に話し合い実践するよう心掛けています。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては外部研修の中で、学ぶ機会を設けている。今後も研修等を活用し支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者やその家族の方に対して、十分な説明を行い、疑問点や不安なことなど時間をかけて理解していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の訪問時等の際に、ご意見やご要望などをお聞きしている。頂いたご意見等はすぐに検討し対応させていただいている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員代表を選出し、定期的に労使会議を行っている。会議内容についてはカンファレンス等で職員全員は反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表にて自己評価を行い、それを基に面談を行っている。面談では、問題点や要望等も伺い、各自が向上心をもって働けるよう職場環境向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、施設内研修にて各職員の適正にあった研修を定期的に通講している。また、資格取得については積極的にスキルアップを図れるようバックアップしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の訪問等と通じ情報交換を行っています。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴し寄り添うケアに努め、職員間で情報共有し利用者が安心して生活できるような関係づくりを心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の悩みや要望などを時間をかけてじっくり聞き取りながら、良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族様との話し合いにて、必要な支援を見極め、適切なサービスを利用できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯干しやたたむ等、できる限りやっていたり、レクリエーションや物づくり等を一緒に行ったりする時間を設け、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様のご意見を聞きながら共に支え合う気持ちを持って利用者様を支援していく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前からのかかりつけ医等へ外出されたり、その際に外食していただいたりと支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性の良し悪しも考慮しつつ、良好な関係を築くことができるよう支援している。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られた後でも面会などさせていただいています。施設側とも連携を図り、より良いケアを提供できるよう支援させていただいている。看取りをさせていただいたご家族様にはお見送りさせていただいております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話から趣味や特技を把握したり、これまでのアセスメントにより、本人主体のケアとなるよう、できる限り意向に沿った支援を行えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には、訪問しサービス利用の経緯把握や生活歴などの把握に努めている。入所後はカンファレンスにて情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の一日の過ごし方を介護記録に記載し現状の把握に努めている。日頃から利用者様を観察し、変化があれば申し送りにて、職員全体に情報共有を行いながら、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な限りご家族様同席での担当者会議の開催を心掛けているが、困難な場合はお電話にて確認させて頂いている。また、担当職員によるモニタリングも反映しチームで介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別で介護記録に記入し職員間で情報共有し、より良いケアに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時代のニーズや要望にも多様なサービスが提供できるよう柔軟な支援に努めている。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設避難訓練の際に地域の方にも参加していただけるように案内を出している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、協力医はご本人様やご家族様の意向に合わせている。他科受診はご家族様に依頼することでご本人様の状態等をご家族様と共有し連携に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づいたことなどはすぐに看護師に伝え相談し医療的な対応を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して治療が受けられるようにご家族様や病院と良好な関係が保てるように努めている。病院の相談員との連携を図り関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化に伴い、その都度、医師やご家族様、看護師などと話し合いながら対応しています。救急対応は消防署や看護師による指導にて職員全員研修を受けております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は応急手当や初期対応の講習を行い、実践力を身に付けるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜の火災を想定した避難訓練を定期的に行っています。近隣の地域の方との連絡網を作成し、地域との協力体制が図られている。災害時の避難場所としての受け入れを受託している。水害に対する避難訓練も行った。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、トイレ前や居室入り口にカーテンを設置し外から見えにくいよう配慮している。人生の先輩として尊重し言葉かけや対応をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の色々な場面で自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にできる限り希望に沿った支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の嗜好も考慮しつつ、なるべくご自身で選んでいただけるよう支援している。隔月の出張床屋にて散髪も行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、献立表を立て誕生日や行事に合わせて、メニューを変更しています。行事食と一緒に作ったり、食べたいモノをお聞きするなどして、楽しみをもっといただけるよう工夫をしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスや水分補給は毎食後に摂取量を記入し、個々の栄養管理に努めている。水分摂取が困難な方はゼリーを提供する等、工夫しながら支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っています。ケア困難な方や不十分な方は介助させていただき口腔衛生に努めています。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェック表から利用者様の排泄パターンを把握し、できる限りトイレにて排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫、十分な水分補給、看護師による排便コントロールを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	リフト浴の導入により、入浴が困難な方でも安楽・安全に入浴を楽しんでいただけるようになりました。できる限り、本人の希望に沿った入浴支援ができるよう工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調を考え、午後に休憩時間を設けています。足背や下肢に浮腫がある方には足挙上にて改善に努めたり、すわりっぱなしとならないよう本人に希望を伺いながら支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時等の際には申し送りにて職員全体が把握できるようにしている。服薬時には名前や日付などを職員2人で確認し、その後利用者様と一緒に声出し確認をすることで、誤薬のないよう細心の注意を払っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人それぞれにあった役割を見つけ支援を行っています。外出などで気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出掛けるなど戸外にできる機会を作っています。中庭にておやつを食べたり、写真撮影をしたりしました。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、入所されている方でお金を所持されている方がいない為、支援していません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新型コロナ感染予防の為、面会を制限させていただいた際はオンライン面会を行いました。短期間ではありましたが、対面での面会もしていただきました。耳が聞こえにくくなった方はご家族様に手紙を書いていただき、支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には利用者様との共同作業で作成した作品が飾れており季節感を表現しています。写真も多く貼り、会話のきっかけになるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファが置かれ、寛ぎの空間となっています。廊下のベンチは憩いの場となっております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の希望で畳を部分敷にしたり、TVや筆筒などの調度品を置いています。居室にはご家族様との写真を掲示したり、ご自身の作品を掲示しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーになっておりトイレ、廊下には手すりが設置されていて、安全・安心して自由に自立した生活がおくれるようになっています。		